



東証二部上場

証券コード:7408



2014年3月期(平成26年3月期)

第2四半期決算説明会

2013年11月15日

株式会社ジャムコ

技術のジャムコは、 士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。したがって、決算短信、有価証券報告書など、表示桁未満を切捨てにて作成、表示している資料とは末尾数値が異なる箇所がございますのでご了承ください。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。

Contents

I 2014年3月期 第2四半期決算の状況

グループ各社の状況(FY13/上期).....	4
業績概要(連結).....	5
売上高(連結).....	6
経常利益(連結).....	7
第2四半期決算のポイント.....	8
貸借対照表(連結).....	11
減価償却費/設備投資額/試験研究費(連結).....	12

II 2014年3月期 通期見通し

売上高/経常利益(連結).....	14
売上高/経常利益(連結四半期).....	15
内装品セグメント.....	16
機器製造セグメント.....	17
整備セグメント.....	18
連結受注状況 実績及び見通し.....	19

III 経営環境と今後の対応

経営環境と市場動向.....	21
中期経営ビジョン.....	24
今後の課題と対応.....	26
内装品セグメント/機器製造セグメント /整備セグメント	

2014年3月期 第2四半期決算の状況

I CATEGORY	グループ各社の状況 (FY13 / 上期)	4
	業績概要 (連結)	5
	売上高 (連結)	6
	経常利益 (連結)	7
	第2四半期 決算のポイント	8
	貸借対照表 (連結)	11
	減価償却費 / 設備投資額 / 試験研究費 (連結)	12

【単位:百万円】

	当 社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ エアロデザイン エンジニアリング	ジャムコ フィリピン	ジャムコ エアロ マニユファク チャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	その他	シンガポール ジャムコ
売上高	24,706	1,474	964	6,458	441	121	244	365	136	0	2,351
営業利益	2,037	89	14	△ 982 (△ 863)	55	△ 6	△ 46	15	△ 7	6	142
経常利益	2,208	92	14	△ 962 (△ 844)	55	△ 8	△ 46	16	△ 7	6	142
当期純利益	1,373	△ 67	8	△ 609 (△ 531)	51	△ 9	△ 29	11	△ 5	4	118

(注1)「その他」はオレンジジャムコ、ジャムコテクニカルセンターを含んだ報告セグメントのその他の区分です。

(注2)シンガポールジャムコは持分法適用関連会社です。

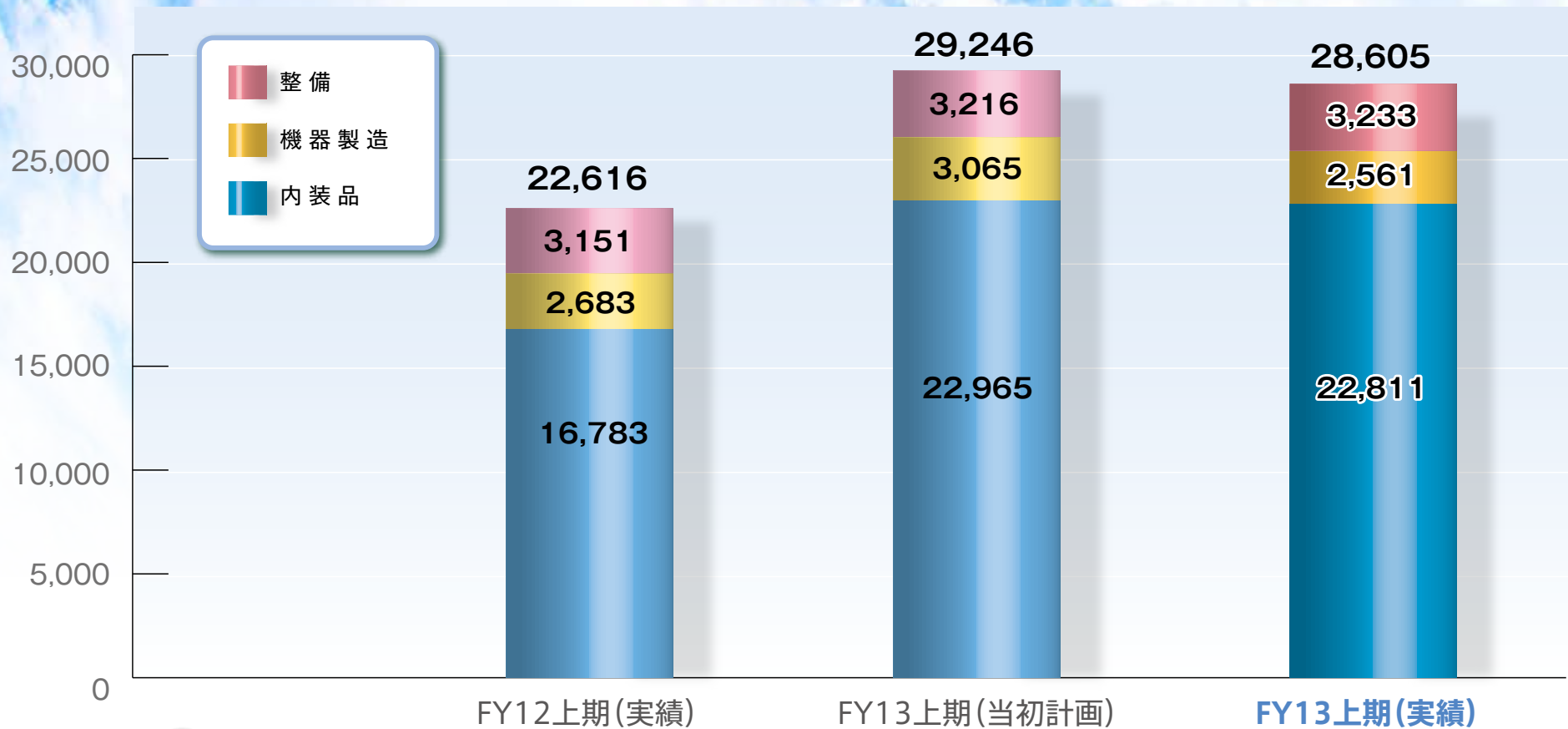
(注3)ジャムコアメリカは787関連開発費の償却について当社と同じ基準で会計処理しています。括弧内の数値は「米国基準」における数値です。

【単位:百万円】

	FY13上期 実績	FY12上期 実績	前年同期比	FY13上期 当初計画	計画比
売上高	28,605	22,616	+26%	29,246	△ 2%
営業利益	1,046	308	+240%	666	+57%
経常利益	1,156	△ 104	—	474	+144%
税引前当期純利益	962	△ 135	—	375	+157%
当期純利益	604	△ 152	—	244	+148%
1株当たり 当期純利益(円)	22.51	△ 5.67	—	9.10	—
売上為替レート (円/USドル)	97.52	79.67	—	90.00	—

(注) 当初計画とは、2013年5月10日の決算発表時の業績予想数値です。

【単位:百万円】



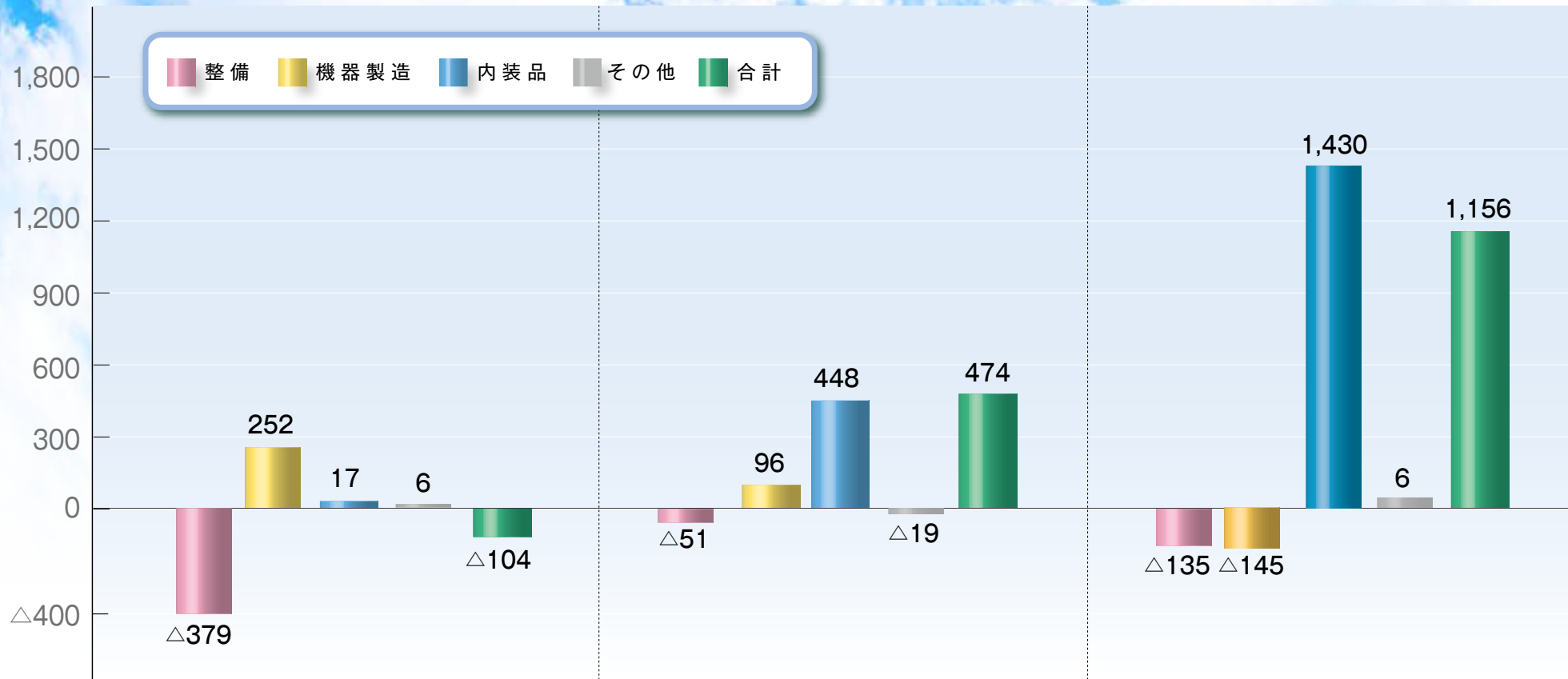
POINT

FY13当初計画対比

- 内装品はギャレー等のBFE関係の生産及び出荷時期が繰り延べとなり減少
- 機器製造は顧客の都合による防衛関連部品の受注不足により減少
- 整備は機体整備事業の受注増により増加

(注) 当初計画とは、2013年5月10日の決算発表時の業績予想数値です。

【単位:百万円】



FY12上期(実績)

FY13上期(当初計画)

FY13上期(実績)

POINT

FY13当初計画対比

- 整備は組織再編に伴う追加コスト等が発生したことにより悪化
- 機器は熱交換器等の売上が減少したことにより悪化
- 内装品はギャレー等の生産性向上、スペアパーツ販売の増加、売上為替レートが円安に振れたことにより増益

(注) 当初計画とは、2013年5月10日の決算発表時の業績予想数値です。

前年同期比

【単位:百万円】

	FY13 上期 実績	FY12 上期 実績	差異
経常利益	1,156	△ 104	1,260
売上総利益	4,162	2,902	1,260
販管費	3,116	2,594	522
営業外損益	110	△ 412	522

当初計画比

【単位:百万円】

	FY13 上期 実績	FY13 上期 当初計画	差異
経常利益	1,156	474	682
売上総利益	4,162	3,904	258
販管費	3,116	3,238	△ 122
営業外損益	110	△ 192	302

(注) 当初計画とは、2013年5月10日の決算発表時の業績予想数値です。

POINT

● 前年同期比

売上総利益： 売上為替レートが円安に振れたことによる増益、スペアパーツ販売の増加、他原価低減効果

販管費： シート開発関係試験研究費が増加
内装品の売上高増加により販売手数料、保証工事費が増加
人件費の増加

営業外損益： FY12上期為替差損 (Net) 2.9億円、FY13上期為替差益 (Net) 1.5億円

● 当初計画比

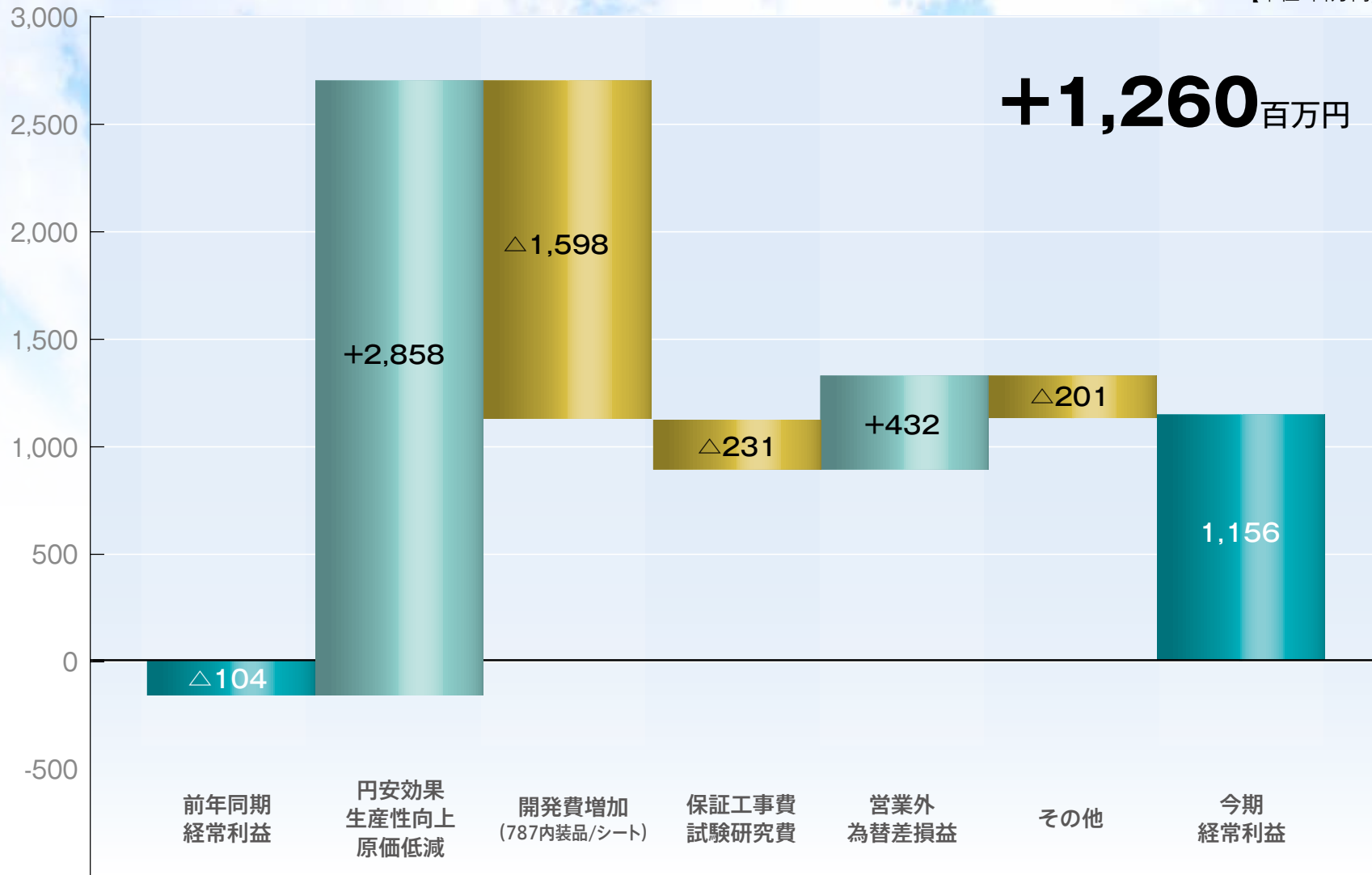
売上総利益： 売上為替レートが円安に振れたことによる増益、スペアパーツ販売の増加、他原価低減効果

販管費： 内装品の売上高減少により販売手数料、保証工事費が減少、試験研究費は増加

営業外損益： FY13上期当初計画は為替差損 (Net) 0.5億円、
FY13上期実績は為替差益 (Net) 1.5億円

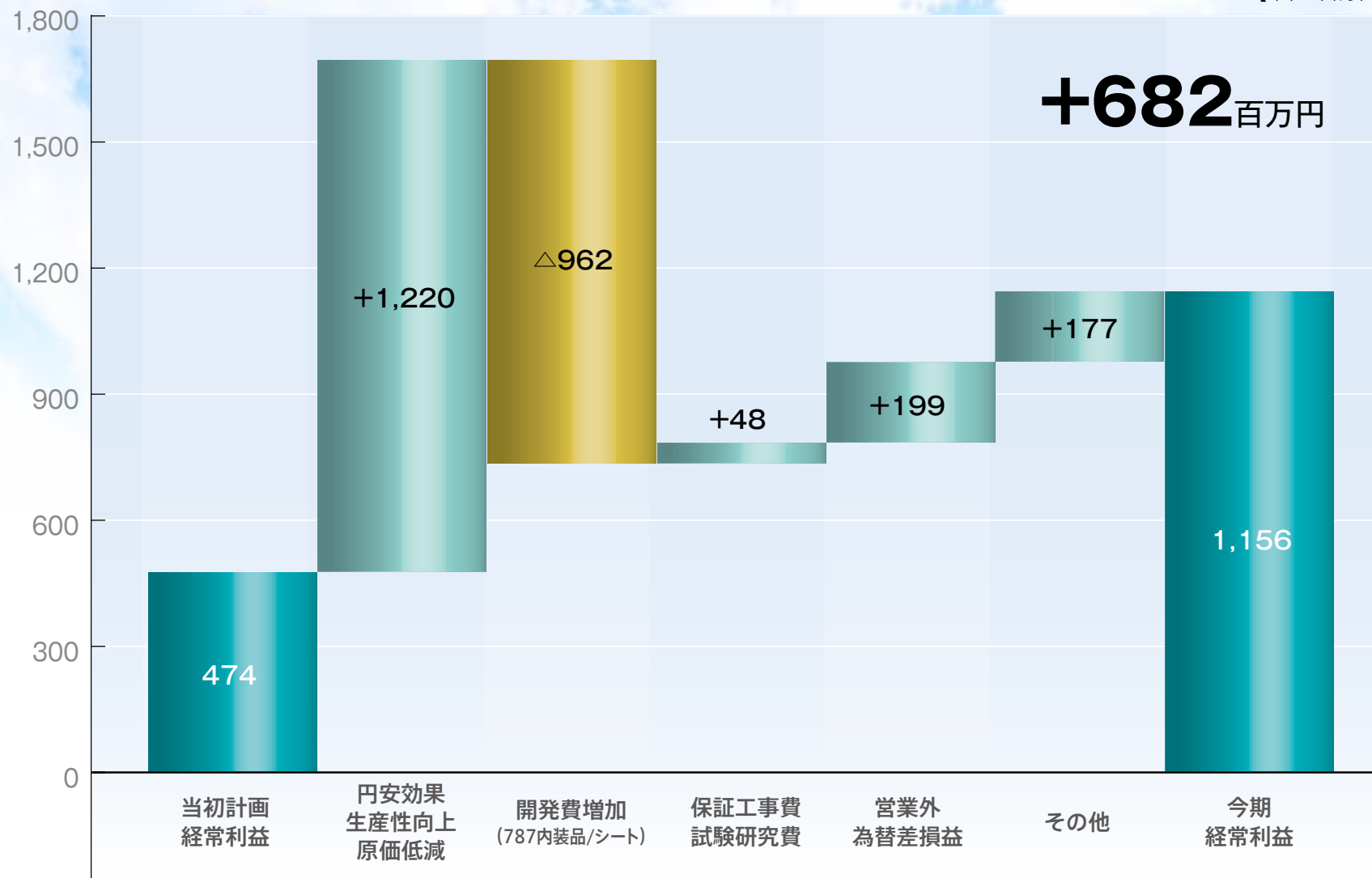
第2四半期 経常利益の前年同期比差異要因

【単位:百万円】



第2四半期 経常利益の当初計画比差異要因

【単位:百万円】



【単位:百万円】

科目	FY13 2Q 末 2013年9月30日現在	FY12 末 2013年3月31日現在
〈資産の部〉		
流動資産		
現金及び預金	3,252	2,580
● 受取手形及び売掛金	15,682	17,757
● 棚卸資産	28,698	25,453
その他流動資産	3,775	3,955
流動資産合計	51,407	49,745
固定資産		
有形固定資産	10,231	10,033
無形固定資産	1,223	1,221
投資その他の資産	3,822	3,546
固定資産合計	15,276	14,800
資産合計	66,683	64,545

【単位:百万円】

科目	FY13 2Q 末 2013年9月30日現在	FY12 末 2013年3月31日現在
〈負債の部〉		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,642	8,684
● 短期借入金	20,601	17,979
その他流動負債	9,663	9,616
流動負債合計	38,906	36,279
固定負債		
● 長期借入金	3,858	4,607
その他固定負債	6,198	6,352
固定負債合計	10,056	10,959
負債合計	48,961	47,238
〈純資産の部〉		
純資産合計	17,722	17,307
負債及び純資産合計	66,683	64,545

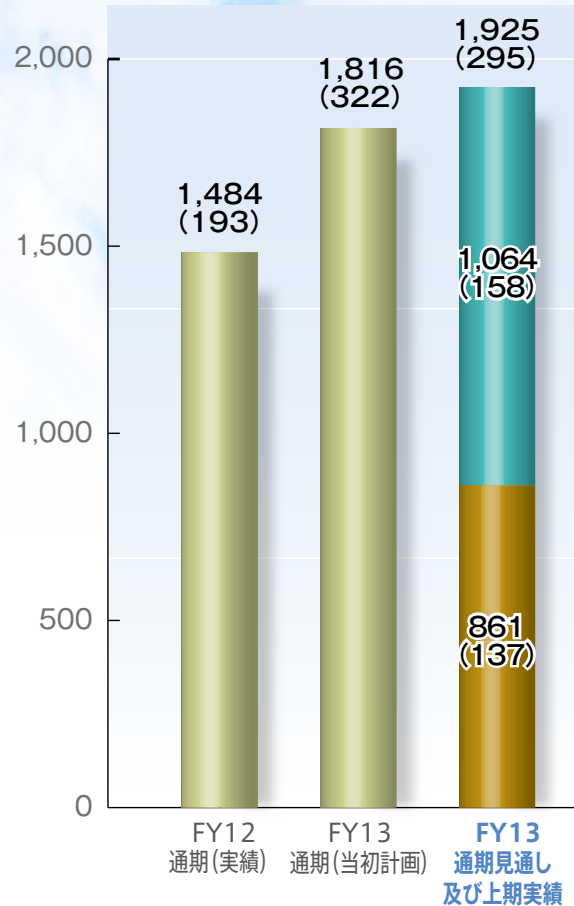
POINT

- 売上債権の回収は進んだが、内装品の増産に伴い棚卸資産が増加
- ジャムコアアメリカ増資(生産拠点購入)等により借入金が増加

【単位:百万円】

減価償却費(連結)

■ 下期 ■ 上期

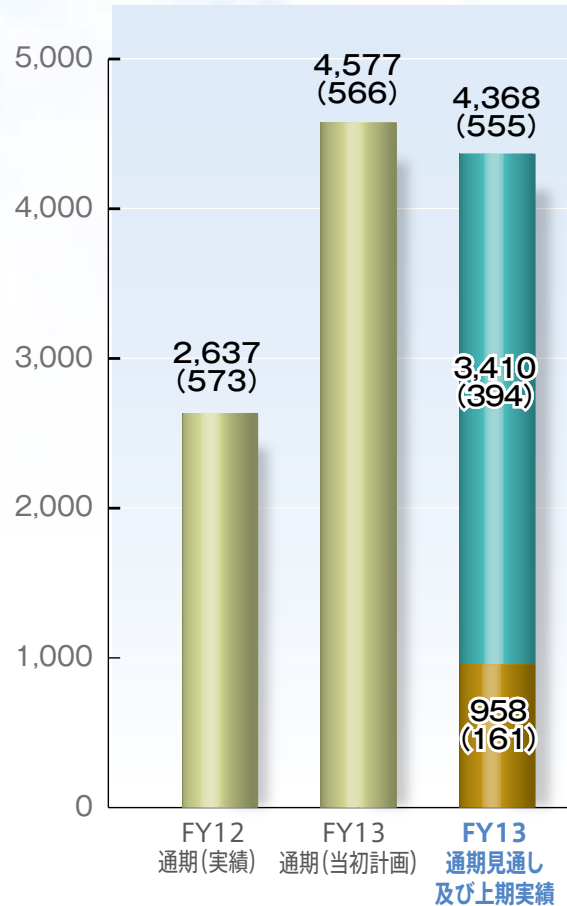


()内はリース資産分

【単位:百万円】

設備投資額(連結)

■ 下期 ■ 上期

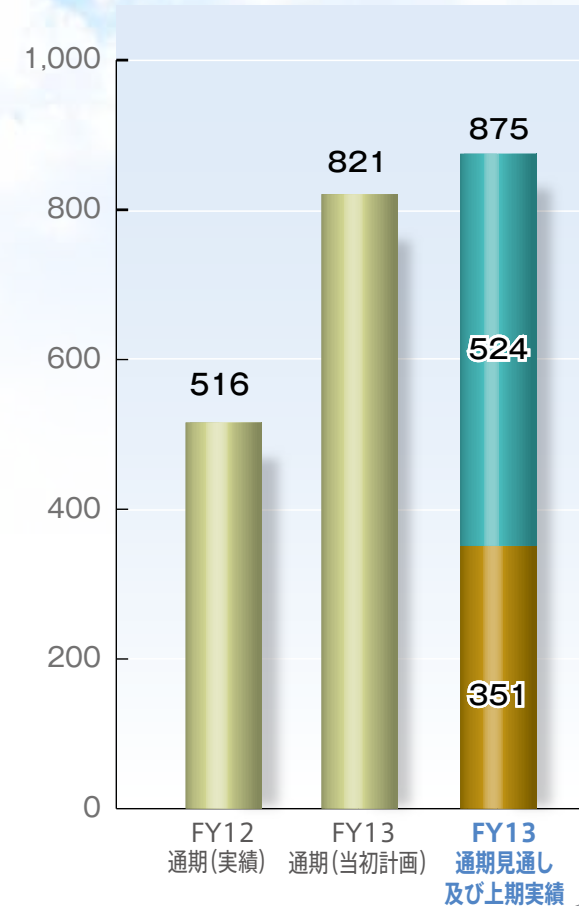


設備投資には()内の全リース物件を含む

【単位:百万円】

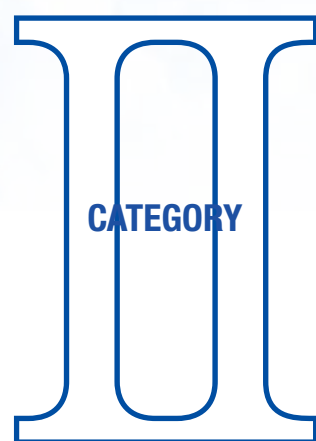
試験研究費(連結)

■ 下期 ■ 上期



(注) 通期見通しの上期は実績値です。

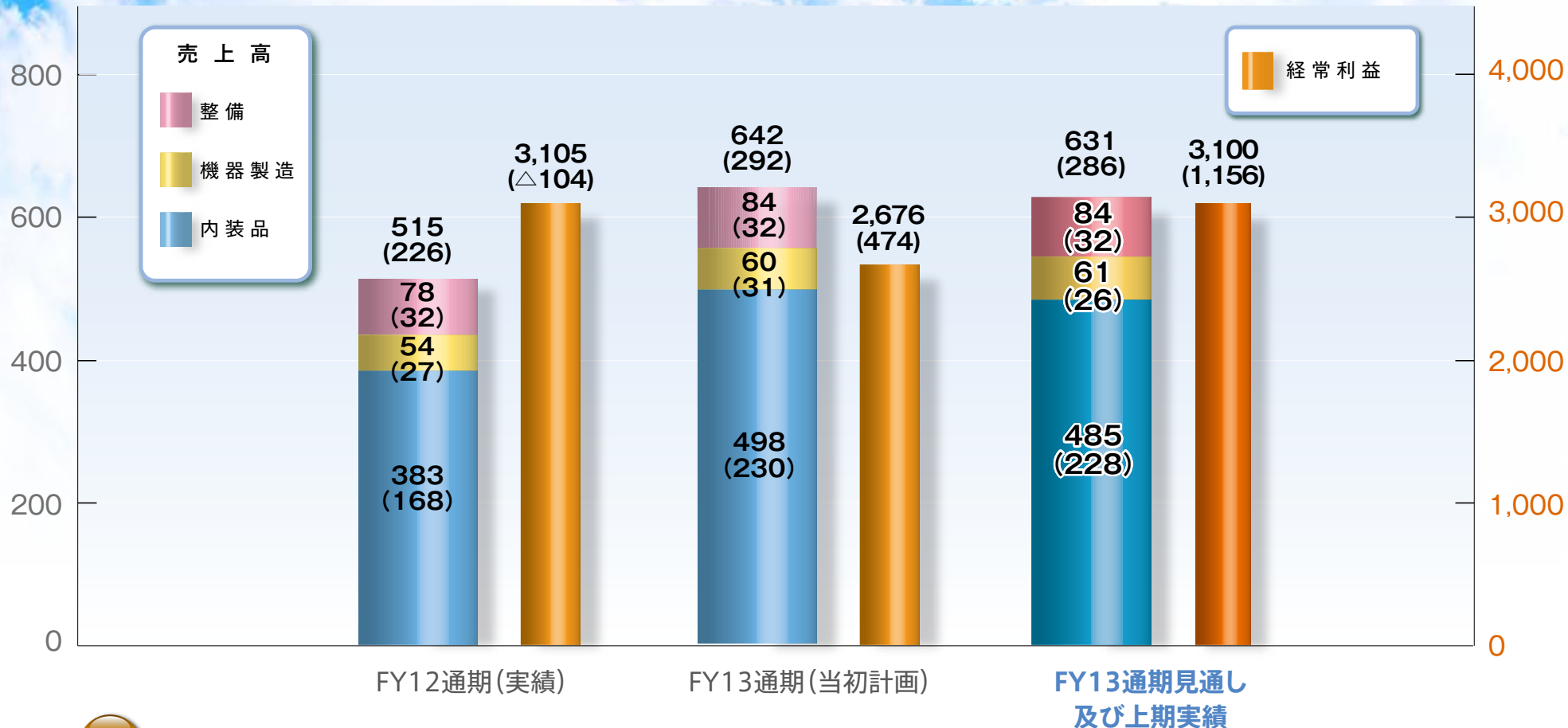
2014年3月期 通期見通し



売上高/ 経常利益 (連結)	14
売上高/ 経常利益 (連結四半期)	15
内装品セグメント	16
機器製造セグメント	17
整備セグメント	18
連結受注状況 実績及び見通し	19

【単位：億円】

【単位：百万円】

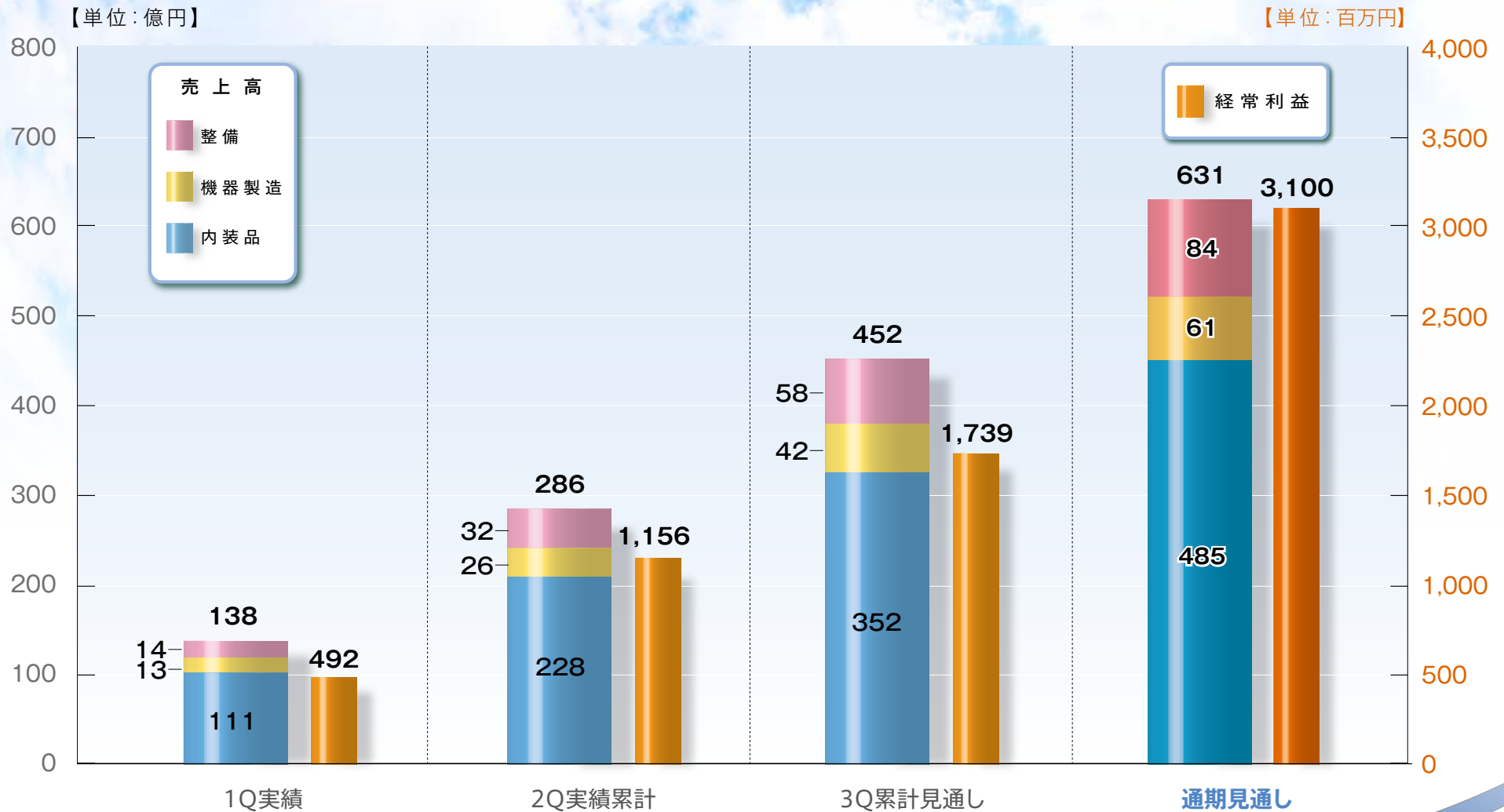


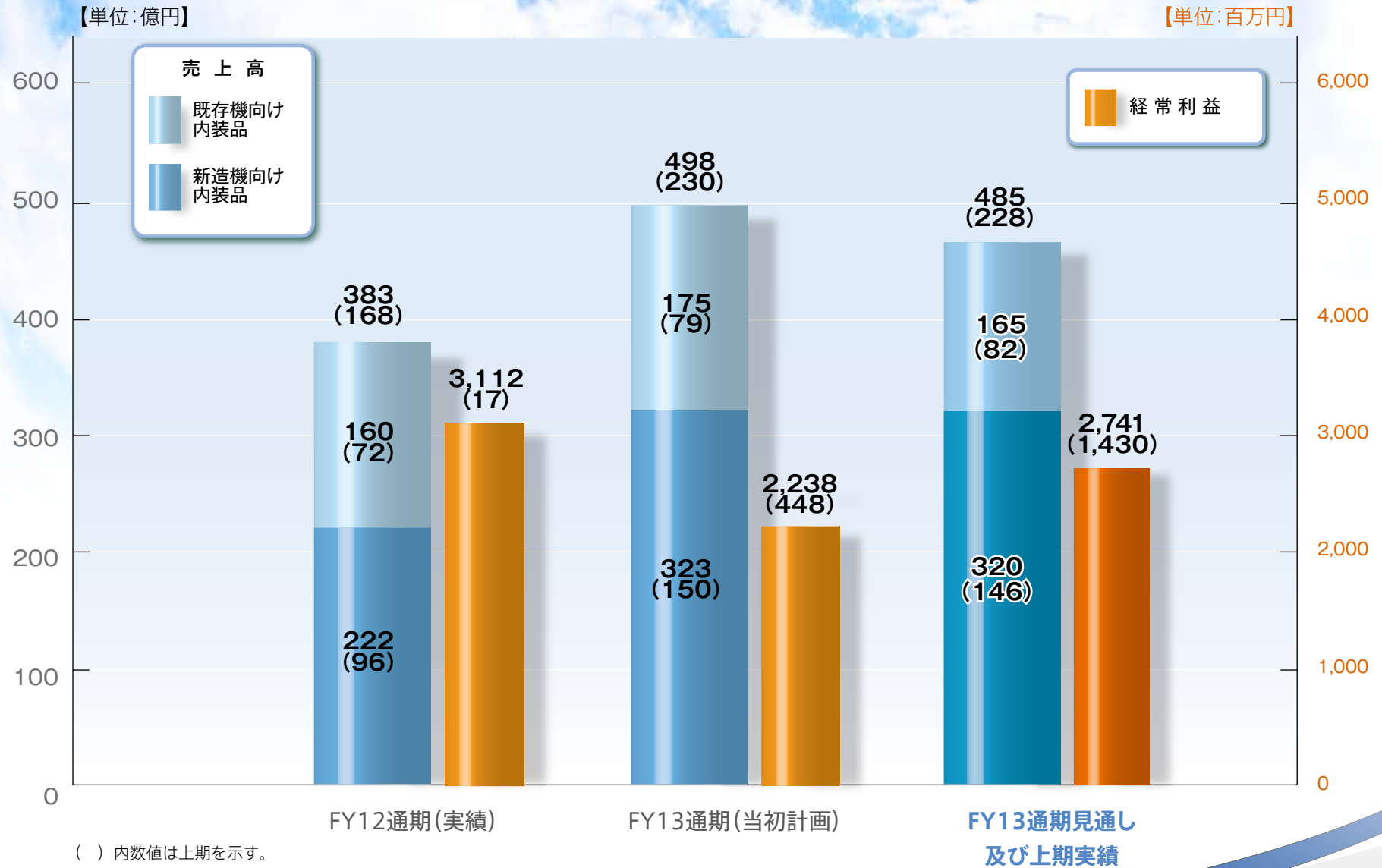
POINT

- 下期以降の想定為替レートは当初計画90円/USドルから95円/USドルに変更
- 内装品はBFE関連ギャレー等の生産・出荷時期繰り延べと、客室改修ビジネスの減少等により売上高減
- 全体の売上高減少はあるものの、スペアパーツ販売の増加と為替レートが想定より円安基調で推移する見通しにより増益

() 内数値は上期を示す。

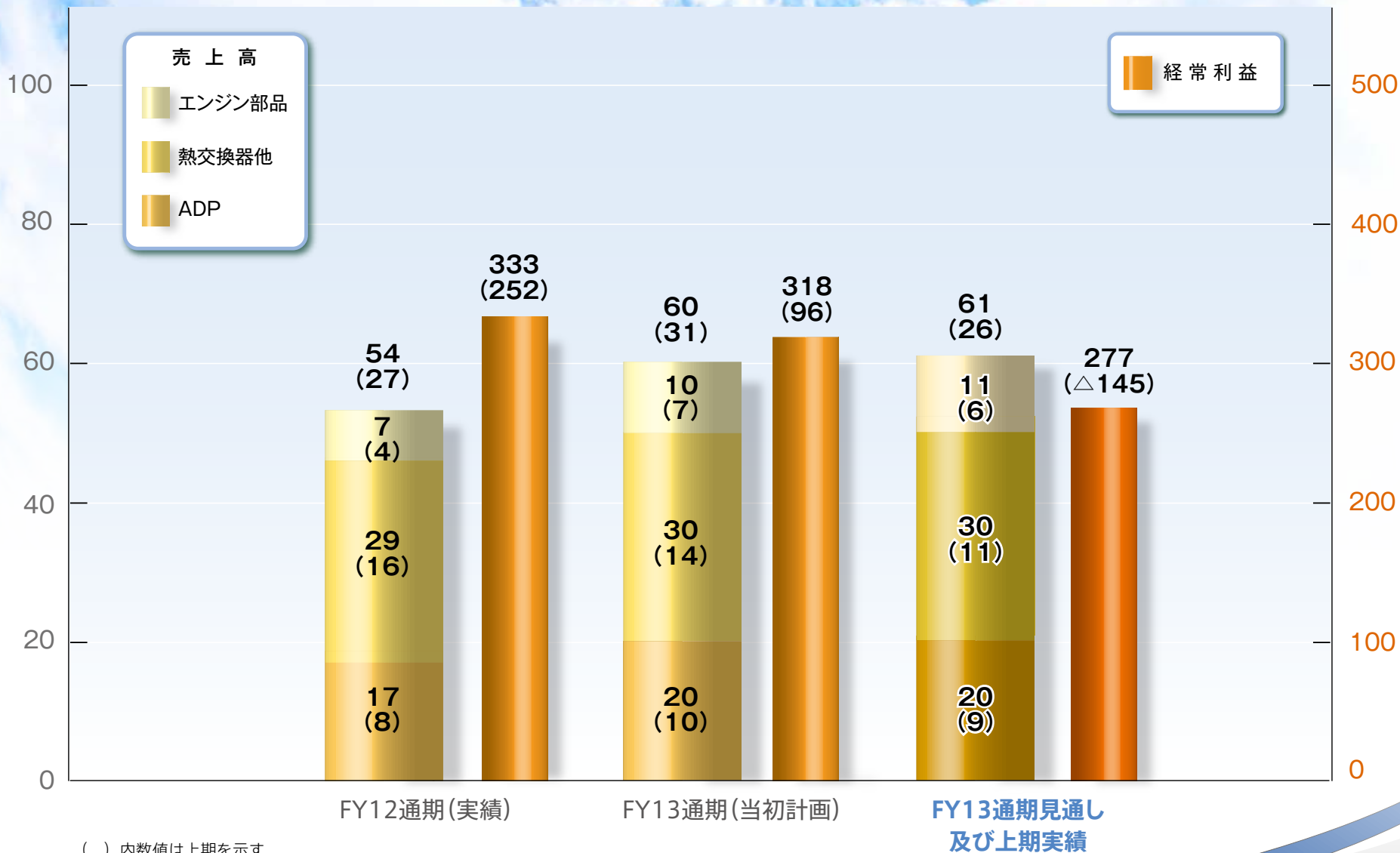
(注) 当初計画とは、2013年5月10日の決算発表時の業績予想数値です。通期見通しの上期は実績値です。





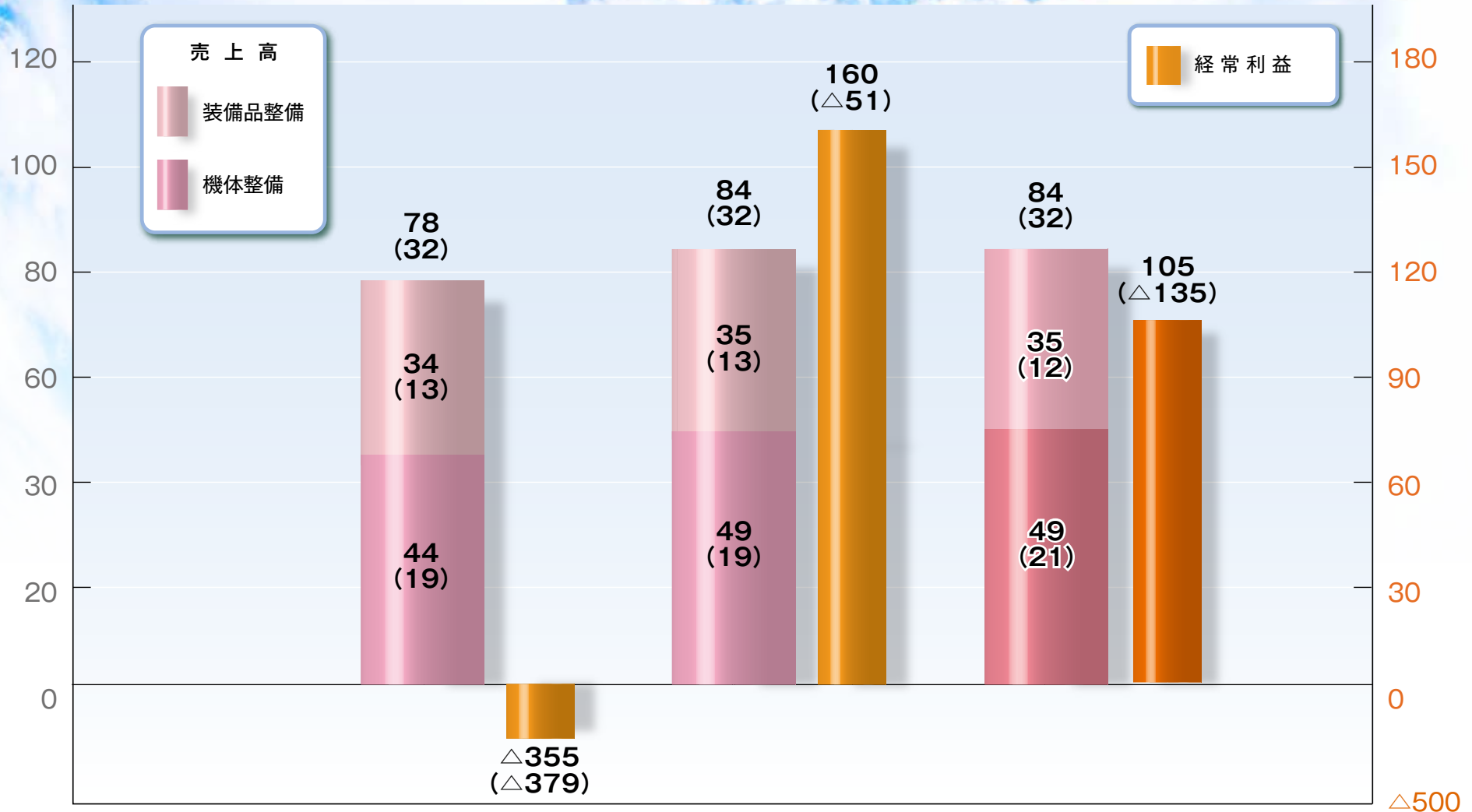
【単位：億円】

【単位：百万円】



【単位:億円】

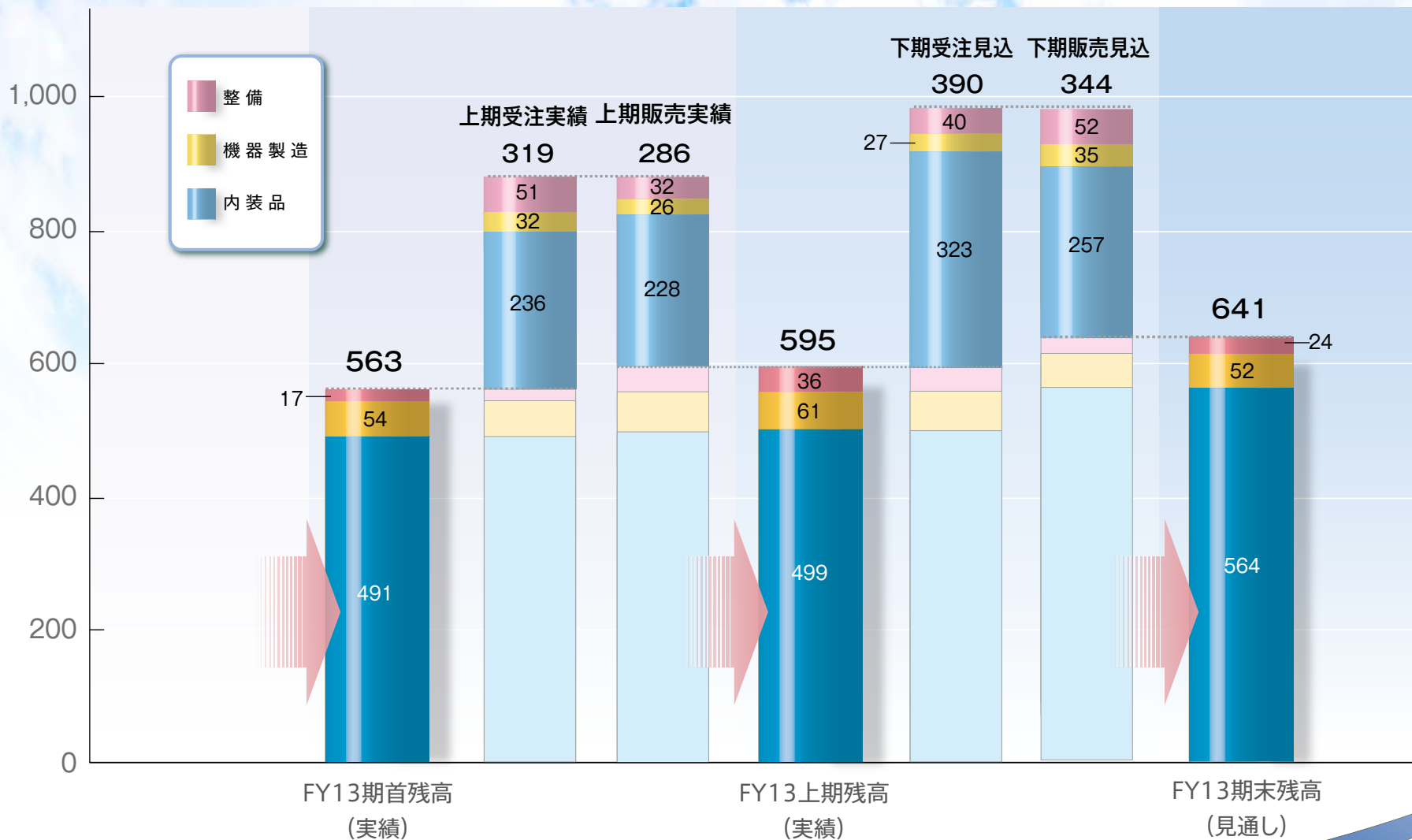
【単位:百万円】



() 内数値は上期を示す。

(注) 当初計画とは、2013年5月10日の決算発表時の業績予想数値です。通期見通しの上期は実績値です。

【単位：億円】



経営環境と今後の対応

III CATEGORY	経営環境と市場動向.....	21
	中期経営ビジョン.....	24
	今後の課題と対応	
	● 内装品セグメント.....	26
	● 機器製造セグメント.....	27
	● 整備セグメント.....	28

- ① ボーイング、エアバスともに増産体制を本格化**
 - 787は月産10機へ引き上げ
 - 777は月産8.3機を維持
 - 747-8は月産1.5機に生産調整
 - A350は2014年後半より納入開始予定
- ② エアラインは原油高や低価格競争により厳しい経営環境にあり、燃費の良い新型機種の導入を進めている**
- ③ LCCの台頭に対して、大手航空会社は路線の再編、様々なサービス戦略を積極的に展開**

航空機メーカーの動向 (2013年9月末時点)

● ボーイング社の受注残機数

狭胴機 3,467 機 (前年同期2,845機)

広胴機 1,320 機 (前年同期1,299機)

● エアバス社の受注残機数

狭胴機 4,176 機 (前年同期3,364機)

広胴機 1,123 機 (前年同期1,050機)

新型旅客機の開発・生産状況

● 787の生産状況

- 2013年9月末日現在 受注残機数890機
- 月産7機から今後月産10機に引き上げ

● A350XWBの生産状況

- 2014年後半より納入開始予定
- 2013年9月末日現在 受注残機数は725機

● A380の生産状況

- 2013年10月までに、115機引き渡し完了
- 2013年9月末日現在 受注残機数は148機

(注) 受注データについてはボーイング社、エアバス社HPより

中期経営ビジョン「強い会社」の実現

～業界ナンバー・ワンに相応しい収益力の向上をめざす～



中期経営ビジョン「強い会社」の実現

～業界ナンバー・ワンに相応しい収益力の向上をめざす～

2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	長期目標
<p>航空機内装品事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 787をはじめとした増産対応 ● グローバル・サプライチェーンの最適化 <p>航空機器製造事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 炭素繊維構造部材(ADP)の新規受注 ● 新工場展開による生産効率向上と原価低減 <p>航空機整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 機体整備の新規受注 ● 部品販売等の事業化 <p>共通施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グローバル人材育成 ● 福利厚生 				
<ul style="list-style-type: none"> ● 第4の柱:シートビジネス本格参入実現 ● 徹底した原価低減 <ul style="list-style-type: none"> ● エンジン部品の新規受注 <ul style="list-style-type: none"> ● 装備品の海外受注 ● 飛行安全の確保と品質向上 <ul style="list-style-type: none"> ● 内部統制体制の強化 ● 海外人事制度 <ul style="list-style-type: none"> ● 経営体制強化 				

① 787プログラムの効率的な増産体制の確立

- 787関連は一年前の月産3.5機から本年末までには10機に増産
- エンジニアリング能力、生産能力、部品製作委託先能力の拡充

② 円高対策

- 海外子会社の活用によるコスト低減、及び海外調達率の引き上げ
- 円建て契約の推進
- 価格維持競争力の強化(商品提案力、品質)

③ 新規事業の検討

- シート事業への本格参入へ向けた取組みの推進
- その他内装品事業の業容拡大

① コア製品である従来品(熱交換器等)の受注の確保と収益の向上

- 早期受注量確定に向けた営業努力
- 改善活動の推進
- 作業者の多能工化、及び作業の平準化
- 技能、知見の継承

② 宮城新工場へ移転後の体制強化

- 新工場・新会社による生産体制の早期構築と定着の推進
- 既存工場の有効活用

③ 航空機炭素繊維構造部材ADP事業の競争力向上と収益改善

- 改善活動の推進
- 内製化の促進
- ADP応用技術の開発促進

① 機体整備の受注確保と装備品整備の領域拡大

- 機体整備工場の受注拡大と稼働率向上
- 装備品海外修理の受注

② 品質保証体制の強化

③ 事業効率の改善

- 事業規模に適した効率的な組織構造への再編

技術を翼に世界の空へ

 Jamco
ALWAYS FLY TOGETHER



Always Fly Together